

2024 JUA/AUA Resident Program 参加報告

塩 出 涼 (愛媛大)

2024年5月3日から6日に、アメリカ合衆国テキサス州サンアントニオで開催された米国泌尿器科学会 AUA annual meeting に JUA/AUA resident program で参加させていただきました。私自身、アメリカ本土に上陸したのは人生初のこと非常に緊張しました。シカゴ国際空港経由でしたが、飛行機は3時間の遅延、さらに搭乗してからさらに1時間待たされるなど、踏んだり蹴ったりの初日で、ようやくホテルに到着したのは深夜1時でした。一人で人生で初めてUberを呼び、空港からホテルまで移動した道のりは、非常に心細くあの時の感情は今も忘れられません。

寝不足で始まった学会初日朝、新潟大学泌尿器科より派遣されていた西山先生と初めてお会いしました。僕の1つ学年は下でしたが、率直な感想を言うと「なんて明るくて優しいいい人なんだ!!」でした。西山先生のおかげで、気分はまるで友人と旅行にきているような気分(しっかりと学会には参加しました)を味わえました。(写真1)

学会期間に多くのセッション、発表を拝聴しました。正直、何を言っているかは8割分かりませんでした。なんとかプレゼンに書かれている内容で理解しようと努力しました。その中で非常に印象的だったのは、海外の同世代の先生方の自信と積極性です。圧倒的な知識があるのはもちろんですが、かなり年齢の上の先生に、「僕はこう思うんですが、先生はどんな風にお考えでしょうか」のような質問を投げかけていて、自分には到底無理だと思ってしまうました。また、新しいことを学ぼうとしたり、情報交換を積極的に行うなどの積極性に非常に感銘を受けました。



写真1 西山先生(左 新潟大学泌尿器科教室), 筆者(右)

中でも最も緊張したのは、レジデントボウルです。これは、同世代の泌尿器科若手医師が地域ごとにチームを組んで、専門医試験レベルのクイズを答えて競うトーナメントです。メンバーはその地域の中でも特に優秀な方たちが選ばれていて、私は Western team で参加しました。言語の壁に打ちひしがれながらも必死に考え、コミュニケーションをとるように努力しました。結果は負けてしまいましたが、アメリカの若手泌尿器科医の優秀さを身に染みて感じる非常に良い経験になりました。(写真2)

そしてなにより、全国の、泌尿器科分野で第一線を走る優秀な先生方、当教室 雑賀隆史教授はじめ、新潟大



写真2 レジデントボウルの様子 右端が必死に問題文を読んでいる筆者



写真3 各大学の泌尿器科教室の先生方との食事会の様子 右から西山先生, 筆者

学 富田善彦教授, 山梨大学 三井貴彦教授など各大学の教授陣との食事会です。現地で多くの食事会にお誘いいただき, たくさんの貴重な話を聞くことができました。テキサスの料理は, メキシコ要素が多く詰め込まれており自分は非常にお気に入りでした。(写真3)

海外の学会へ参加したことはありませんでしたが, やはり日本の一歩二歩先をいった治療, 手術を積極的にしており, 最先端の技術に触れ, 非常に刺激を受けました。語学の必要性についても痛感しました。自分の未熟さ,

さらにはこれからのビジョンを再認識することができたと感じます。

最後に, Resident Programにご推薦いただいた雑賀隆史教授をはじめ, 国際委員長の富田善彦教授, 日本泌尿器科学会事務局 田中有希様, 米国泌尿器科学会事務局, Ms. Marielle Marktanner, 私を送り出していただいた済生会松山病院の先生方, ご指導含め関わっていただいた皆様に深く感謝申し上げます。